



川崎いのちの電話

題字：初代理事長 近藤俊朗

特集

誰もが地域で豊かに暮らせる 社会をめざして



川崎市岡本太郎美術館シンボルタワー「母の塔」=川崎市多摩区

ひとりで悩まずに電話相談
044-733-4343



vol. **101**

2021. 3. 1

CONTENTS

特集

誰もが地域で豊かに暮らせる社会をめざして

NPO法人らぼおる代表理事 北川 千鶴子 さん

ほっとひといき

母性と多様性

インフォメーション

チャリティー寄席「柳家三三独演会」(2021年3月14日開催)

こころの健康セミナー

(2021年3月20日開催)

自死遺族ほっとライン

044-966-9951

第2・4木曜：正午～午後4時

自殺予防 いのちの電話

0120-783-556

毎月10日・24時間無料(午前8時～翌朝8時)

インターネット相談

<https://www.inochinodenwa.org/> (3回制)

<https://www.inochinodenwa-net.jp> (1回制)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

特集

誰もが地域で豊かに 暮らせる社会をめざして

NPO法人らぼおる代表理事 北川 千鶴子 さん

北川千鶴子さんは川崎市北部を中心に40年近く、生きにくさを抱えた人たちに出会った時、その人のために何ができるのかを一緒に考えてきました。そして、その時できる支援を全力で行い、「待たせない・断らない」を理念に掲げ、当事者の思いを一番に活動を続けています。障がいを持っている人も、持っていない人も地域で豊かに暮らしていくための活動を、幅広く実践し続けている北川さんに話を聞きました。

活動の原点

岩手県の電気も通じていない不便な田舎で生まれ育ちました。そんな環境の中でも、現実を受け入れ楽しみを見つけて生きることを学びました。「生きていれば何とかかなる」と育まれた生きていく原点は、活動の苦しい時の踏ん張りになっています。何か助けが必要とされた時、全部はできないけれど「ああ、生きていてもいいか」「明日は何とかかなる。明日も生きていいか、今日を何とか生き抜こう」と思ってもらえる支援ができたという核ができ、それは今も活動の原点として心の底に脈々と続いています。

「なごみ園」との出会い

大学卒業後、東京都立の心身障害福祉センター、都立七生福祉園幼児棟の心理・言語担当として勤めました。現場で障がいを持っている人と一緒に活動したいと思っていた時、小田急線生田駅の側で、障がいのある子どもたちを家の外に出すことを目的に活動をしていた障がい幼児の通所施設「なごみ園」に1974年(昭和49)出会いました。「なごみ園」の理念は「障がいの有無、程度、種別に関わらず、地域の中で当たり前で暮らす」でした。この理念はその後の活動の根幹になっています。

「なごみ園」は開所当時無認可でした。スタッフは主婦や学生で、全員がボランティアでした。初めは前職を活かして心理判定や言語治療を担当していましたが、一緒に暮らし活動することが大事だと気付かされ、それ以後は一関係者として関わりました。全員が無償ボランティアでは無責任になると考え、1975年(昭和50)有償ボランティア制度(時給200円)を導入しました。資金不足は否めませんでした。当時の川崎市長が無認可保育園への補助金を拠出してくれたので、それをもらいながら販売活動などで活動を支えました。

さらに保護者、スタッフ、ボランティアが

一緒になって、市長に陳情活動を続けた結果、1978年(昭和53)川崎市から社会福祉法人を立ち上げるなら土地を貸してもよいと提案され、バザーや販売活動等で基本財産100万円を用意し、1981年(昭和56)「社会福祉法人なごみ福祉会なごみ保育園」が誕生。保育園には心理士とか言語聴覚士という職種はないので、用務員(障がい児担当)という名目で保育園業務に関わりました。

「親と子の寺子屋でんでん虫の家」の立ち上げ

「なごみ保育園」には廊下がありません。廊下や職員更衣室を削って障がい児の療育のスペース〈鬼が島〉と〈竜宮城〉の2室を確保したためです。しかし、川崎市の視察で、園児以外の障がい児が通ってくるのはおかしいと指摘を受けました。当事者が必要としている活動が法律で制限されるのは理不尽だと思いながらも、そのことを押し通せば保育園にも迷惑がかかるとの懸念もあり、そこを飛び出し1982年(昭和57)「親と子の寺子屋でんでん虫の家」(以下「でんでん虫」)を立ち上げました(保護者8名、職員2名で開始)。「でんでん虫」では、保護者の勉強会や保育園に入っている子どもたちの個別指導などのアフターフォロー(今でいう放課後等デイサービス)を始めました。そこでは、グループ指導や音楽療法などを行いました。

「親と子の寺子屋でんでん虫の家」と名付けたのにはいろいろの思いが含まれています。「親と子の寺子屋」とは、障がいのある子の保護者が楽にならなければ子どもの幸せはないと思っ



たからです。親がふっと息を抜く場所があるか無いかで子どもの生活は変わります。「親も子も一緒だよ」「世の中は完全に安心できる場ではないので、でんでん虫のようにちゃんと見て危なかったら殻に隠ればいい。大丈夫だと思っ



北川 千鶴子 (きたがわ ちずこ)

1945年岩手県久慈市に生まれる。東京都の職員を経た後、1974年障がい児の通園施設(障害幼児通園施設)なごみ園に出会う。1982年川崎市で親子の寺子屋でんでん虫の活動開始。でんでん虫共同作業所、グループホームあじさいなど障がい者の活動の場を次々に設立。

社会福祉法人なごみ福祉会理事、社会福祉法人らぼおるの樹の理事を経て、現在はNPO法人らぼおるの代表理事。

たら、そろそろ前に進めばいい。そして後戻りはしない」との思いが込められているので、名前にはこだわりました。

障がいがあった時、病院では行き先までは紹介してくれません。お母さんが働きたいと思って保育園に希望を出しても「障がいのあるお子さんを保育園に行かせてどうするの?それより訓練施設がありますよ」と体よく断られます。当時は、お母さんが働くことへの支援がほとんどありませんでした。保護者から「待たせないで欲しい」「断らないで欲しい」と言われ、そのことがずっと頭から離れず、新たに活動の理念に追加されていきました。

活動の原点に立ち返り

2000年(平成12)「でんでん虫」の事業は、社会福祉法人なごみ福祉会に移管されましたが、今でも「でんでん虫」の事業は引き継がれ、個別指導の他に、小中学校の支援学級に出向いて音楽療法などを行っています。移管したその年、55歳でした。5年後には引退するつもりで、自分のやりたいことを模索する過程で、2005年(平成17)「NPO法人らぼおる」を立ち上げました。福祉サービスとか療育とかに捉われず、法人が団体に所属せず地域に必要なことを必要としている人に支援し、地域で当たり前暮らしを活動の柱に据えて活動を開始しました。「らぼおる」は「人と人、人と組織、組織と組織をつなぐ仕事がしたい。研修、イベント企画等々を法人の柱に!」というイメージで考え名付けました。その時、なごみ福祉会から、精神障がい者対象の施設「メイクフレンズ多摩・麻生」と暮らしの場である「生活ホームあまぐり」「生活ホームばすてる」を引き継ぎました。

NPO法人を立ち上げる時も「待たせない」「断らない」の理念を引き継いでいきました。法人立ち上げ時に、ヘルパーステーションや「フリースペース原っぱ」等の事業を開設したことにより、希望者もどんどん増えていきました。事業は膨

れ上がり「待たせない」と掲げながらも、事業の継続を考えると、NPO法人が目指したものと主旨にずれが生じてきました。「自分たちのやりたかったことは何だったのか」と原点に立ち返り、継続して福祉サービスを提供し続ける事を目的に、2009年(平成21)「社会福祉法人らぼおるの樹」を立ち上げました。社会福祉法人とNPO法人がお互いの長所を活かし、短所を補完しながら両輪で活動を始めて10年が経ちました。

出会いを大切に

目の前に困った人がいれば、断らないと決めて活動してきました。知的障がいのMさんはアルコール依存でした。ホームでお酒を飲んで、包丁をポケットに入れて歩いているところを警察に通報され、銃刀法違反で捕まりました。取り押さえられる時暴れたので、そのまま逮捕されてしまいました。Mさんは弁護を引き受けてくれた副島洋明弁護士の尽力によって助けられました。

その事件を通して、発達障がいを抱える人の中で、何度も軽い罪を犯してしまい「累犯」として執行猶予がつかなくなる人がいることを知りました。知的障がい者は警察の事情聴取の時、きちんと答えられず調書が正しく書かれないこともあり、そのため実刑を免れないこともあります。周囲の見守りや福祉の支援があれば、地域の中で暮らしていけるのではないかと考えています。Mさんの判決の量刑が、収監された日数を超えていましたので、即釈放になりました。

Mさんが出所した時、支援者間で居場所を検討しましたが、その日は行く所がなかったので我が家に泊めました。翌日すぐに行政から支援が決定され、グループホームに入ることができました。目の前で困っている人がいれば手を差し伸べるというスタンスは持ち続けています。ただ、一人で出来ることは、限られているので、関わった人をいろいろな所や人と繋げていけるようにしたいと思っています。

2011年(平成23)東日本大震災後ボランティアに行ってきました。行きたいと言った利用者、置いていくと心配な人もスタッフと一緒に連れて行きました。初日は働けませんでした。翌日から働き始めました。普段ホームでは掃除をしない人が進んで掃除しました。弱者だから守らなくてはと思っていたのですが、そんなことはない気付かされました。人には得手不得手があります。普段は何もできないような人が東北の支援の場に行く力を発揮します。累犯の人も、昔土方をやっていたので、力強く頼もしかったです。できないことを無理にできるようにする必要はないし、できなければできないでよいのです。持っている力を大事にしていくことです。できない人に私たちが手伝えることで生活が豊かになればよいと、震災ボランティアの支援を通じて気付きました。そんな豊かな暮らしを築けるお手伝いができればよいと考えています。

コロナウイルス騒動の中で

コロナ禍の中で施設が一時閉鎖されました。そのためストレスでどんどん調子が悪くなっていった人がいます。暫く経って、お母さんから子どもが包丁を持って、近くの宅急便の集配所に行ってしまったと連絡が入りました。何故包丁を持って行ったのか分かりませんが、医療保護入院になってしまいました。施設閉鎖で追いつめられた結果ではないかと考えています。

他にもコロナが怖くて、潔癖症みたいに手を何回も洗うようになり、精神科に入院した人もいます。ストレスで行動がエスカレートし、どんどん薬が増え、70kgあった体重が40kgになってしまいました。薬の過剰投薬が原因と考えられます。もう一日遅れていたら命も危うかったと転院先の病院で言われました。今はまだ酸素吸入をしています。状態は落ち着き表情も出てきたので、回復してくれるのではないかと考えています。

他にも気になる人は何人かいます。普通の生活ができなくなっているからです。そういう時こそ何とか支えたいと思いますが、それを周りの人にうまく伝えられないもどかしさを感じています。

常に前を向いて

今一度基本に立ち戻り、これまでの活動の歴史を振り返りながら、「NPO法人らぼおる」での活動を再構築したいと考えています。以前はひとりの人間を救えないような組織は必要ないと考えていましたが、ひとりの人間を救えば他の人にだって波及できると考えられるようにな

りました。一人ひとりに丁寧に対応して、一人ひとりを大事にしていくことにはこだわりたいと思っています。今後も制度の枠内だけではなく、その人が必要としている支援をしていきたいです。

複数の障がい者の自叙伝をまとめて出版することも考えています。そのうちの一人、Kさんは被爆二世。父親が長崎で被爆。その後、上京してKさんが生まれました。Kさんには学習に遅れがあり小学校の時にじめに遭っていました。父親が学校に、息子が被爆二世であることを説明しましたが、いじめを見落とす先生もいれば、被爆の影響があると同級生に説明してくれた先生もいました。社会人になってからも、職場でいじめられ職場を転々。30代で高熱で倒れた時、初めて自分に知的障がいがあると分かり、その時まで家族から知らされてなかったのでパニックになりました。40歳を過ぎてから、グループホームで暮らすようになりました。津久井やまゆり園の事件や福島第一原発事故など社会的な事象にも強い興味を示し、自叙伝には書き込まれています。Kさんは「いじめられたのは嫌でしたが、生まれてきてよかった。いじめで自殺を考えている子どもたちに読んでもらいたい」と話しています。社会に自分の考えたことを伝えたいという強い思いがあり、その思いを大事にしていきたいのですが、現在は体調を崩しているため、出版には至っていません。今後とも、本人の希望が実現するように応援していきたいと思っています。

また、「医療と統合失調症」というテーマで当事者がリモートで発表する機会がありました。自分の生い立ちや発病を公表できなかった苦しさ、自分のやりたかったことなどの話しを聞くことで、貴重な体験になりました。

フォーラムなどを通して障がいのある本人、そして本人だけでなく、家族だけでなく地域に暮らしている人たちにもいろいろな人がいることを知ってもらい、地域で豊かに暮らしていけるような活動もしたいと考えています。今度のフォーラムは、「※生笑い一座」のワークショップを計画しています。

常に活動の原点を忘れず、振り返りながら制度にこだわらず支援を必要としている人に必要なことを一緒に考え、活動をしていきたいと思っています。常に前を向いて。

※「生笑い一座」 NPO法人「抱僕」の理事長奥田知志が元ホームレスの皆さんに過去の体験をインタビューしながら、ワークショップや歌などを披露する一座です。
(NPO法人抱僕 HPより抜粋)

母性と多様性

「沈黙の春」のレイチェル・カーソン、「苦海浄土・わが水俣病」の石牟礼道子は、農薬などの化学物質の害に警鐘を鳴らした女性ですが、ともに海を背景に描いています。石牟礼道子は故郷の天草の海を、レイチェル・カーソンは「我らをめぐる海」を美しく表現しています。最近の環境保護活動ではスウェーデンのグreta・トゥーンベリが注目されています。まだ10代ですが地球の環境危機をしっかりと訴えています。

男性が訴えるより女性が訴えるほうがより説得力があるのでしょうか。これには母性が関わっているからなのでしょう。母なる海は世界の共通語のようです。人によっては胎内回帰とか、海は生みに通じるものと言います。旧約聖書「創世記」では男性のアダムのおぼろげから女性のイブがつけられたことになっていますが、最先端の生命科学では、38億年前に生命が発生して以来世界には長い間メ

スしか存在しなかったことがわかっています。

メスがメスを生む単為生殖の時代が続き、ヒトのようにメスがオスも生む有性生殖に切り替わったのはここ5億年のことで、生命の歴史上ではかなり新しい出来事とされます。当然オスの遺伝子はメスに比べて少なく、情報量も極端に少ないのです。

今地球上の大型生物では有性生殖が圧倒的に優位になっています。特にヒトでは中島みゆきが「縦の糸はあなた 横の糸は私」と歌うように両性の遺伝子が多様に組合わされた結果、さらに多様性を生み出しています。そしてその多様性は、未知の病原体や感染症の襲来に対する抵抗性を獲得しつつ、進化の歴史を歩んでいるわけです。

オスとメス、二つの性は多様性を生み出す上で同等ですが、生まない自由もヒトは獲得しています。コロナ禍でもヒトは多様性を失うことなく生き続けていくでしょう。(COCO)

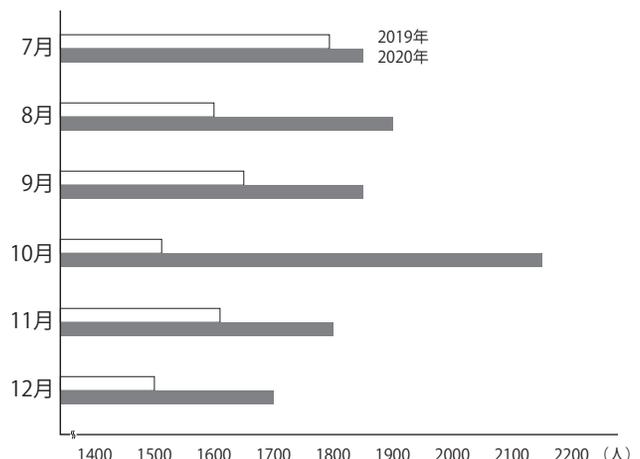
◎自殺者が前年比6ヶ月連続増

新型コロナウイルス感染の終息が見通せない中、全国の自殺者数は2020年7月から6ヶ月連続で増加した。警察庁の最新統計(速報値)によると、この6ヶ月間の自殺者は11,375人となり、前年比1,668人増となっている。

男女別では、男性がほぼ前年度並みであるのに対し、女性の増加率は、7月18%増、8月45%増、9月30%増、10月89%増、11月21%増、12月29%増と著しく多くなっている。

その背景として、女性は非正規雇用の割合が男性に比べて大きく、医療や販売、飲食サービス業といった新型コロナウイルス感染の影響が大きい業界で働いている人が多いことから、心理的・経済的不安が生じている可能性があること。また、ステイホームからくる子育てや介護、あるいはDVといった家庭内の問題を抱え込んでいることなどが指摘されている。

7月~12月の自殺者数



警察庁発表資料より(2019年確定値、2020年速報値)

インフォメーション

チャリティー寄席 柳家三三独演会 3月14日開催

[日時] 2021年3月14日(日) 開場 12:30 開演 13:30
 [会場] エポックなかはら(川崎市総合福祉センター)
 (JR南武線「武蔵中原駅」下車、改札口を出て右へ徒歩1分)
 [木戸銭] 前売り 4,000円(当日券 4,500円) 全席指定
 [出演者] 柳家三三、立川こはる、入船亭扇ばう、(俗曲)桂小すみ、
 (三味線)森本規子



【前売りチケット購入方法】

- ① チケットぴあ
 ・電話申込 0570-02-9999 (Pコード: 502843)
 ・セブンイレブン、チケットぴあ店舗で直接購入 (Pコード: 502843)
 ・ホームページ (<http://t.pia.jp/>) から申込み購入
 ・お問合せ チケットぴあインフォメーション 0570-02-9111
 (自動音声対応)24時間 (オペレーター対応)10:00~18:00
- ② e+(イープラス)
 ・ファミリーマート端末(ファミポート)で直接購入
 ・ホームページ (<http://eplus.jp/>) から申込み購入

[問い合わせ] 川崎いのちの電話事務局
 TEL: 044-722-7121 (平日 10:00~17:00)
 ホームページ <http://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

こころの健康セミナー 「こどもと家族のこころの健康」 <川崎いのちの電話、川崎市共催>

新型コロナウイルス感染拡大により延期となっていました「こころの健康セミナー」の開催についてお知らせします。
 [日時] 2021年3月20日(土・祝) 13時00分~16時00分
 ※セミナーはオンラインによる開催です。申込方法は川崎市精神保健福祉センターのホームページに掲載。



ホームページQRコード

今回は、聖マリアンナ医科大学特任教授の小野和哉先生が「こどもと家族のこころの健康」について講演します。その後、「市民のこころの健康と相談機関について」をテーマにシンポジウムを開催します。
 ※詳細についてはホームページなどでお知らせします。

[問い合わせ] 川崎いのちの電話事務局
 TEL: 044-722-7121 (平日 10:00~17:00)
 ホームページ <http://kawasaki-inochinodenwa.jp/>

赤い羽根共同募金会より助成金

赤い羽根共同募金の助成金により、2020年度は、新規相談ボランティア募集のために活用させていただきました。

※赤い羽根共同募金は、地域福祉の推進を目的として、社会福祉事業・更生保護事業を行う団体の支援に使われています。「川崎いのちの電話」の活動も毎年その対象として認められています。

資金ボランティアとしてのご支援を!

川崎いのちの電話の活動は皆様の温かい支援によって運営されております。多くの方のご協力をお願いいたします。
 賛助会費・一般寄付金とも所得控除など税制上の優遇措置の対象となります。

① 賛助会員(年会費)

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

② 一般寄付(金額、回数を定めません)

【振込先】 ■郵便振替 00240-2-36798
 社会福祉法人 川崎いのちの電話
 【問い合わせ】 川崎いのちの電話事務局
 TEL: 044-722-7121 (平日 10:00~17:00)

寄付感謝報告

2020年9月~
2020年12月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

【個人】

(9月) 石川幸夫 鈴木恵子 坂本治子 太田文雄 杉谷憲一 粗山勝雄 大塚ふみ子
 蝦名義博 松島太郎 濱田徹加 藤トミ子 田中勝利 市川功一 島崎祥子 菅沼雪絵
 ノビ'ラマサヒロ (10月) 都高真道 肥塚由美 鈴木早苗 中村文子 伊藤陽三 近藤八千代
 佐々木陽子 高梨 齊 藤嶋とみ子 岡本利子 小川照子 松尾信子 浅田美子 鏡木昌子
 岡安敬夫 伊藤彰彦 村上カズコ 秦ひろみ 佐野敦子 岡田修二 奥秀子 岡田良子
 百元夏繪 桑名カス'ヨシ 三辺淳子 太幡世記 小島良子 安田享二 蝦名義博 牧野洋久
 山田美和子 内田三枝 吉川亜子 小島克巳 大川幸男 坂尾宜徳 斉藤加奈子
 中村美枝子 長掛栄一 平菜々子 小島克巳 大川幸男 坂尾宜徳 斉藤加奈子
 河合 東 上田あかり (11月) 中安光徳 今野タネ子 宮坂源一 柴田武子 山々文雄
 吉田伸一 福山清蔵 栗井清 岡安敬夫 蝦名由紀江 渡邊新治 百田美千代
 余湖はれみ 藤 橋俊 山本苑子 花見光夫 KIM OKHEE 山田美和子 清水亨桐
 藤 雅文 白井香代子

【団体】

古本募金 きしゃぼん 侑太平商事 山本賀也設計室 株由貴工務店 川崎市医師会 ケイ・アイ商事(株)
 プライムコーポレーション(株) 久津間製粉(株) 宗教法人潮音寺 鷺沼ビル管理(株) 株米山石材店 (有)坂本木工所
 東京恩寵教会執事会 ジェクト(株) 川崎ロータリークラブ YOKOHAMA BELL ライオンズクラブ 募金箱

【10万円以上の個人・法人及び各種団体】

山口 恒太 (50万円) 立木 郁子 (10万円) オール川崎ライオンズクラブ連絡協議会 (10万円) 一般社団法人川崎市弘済会 (10万円)
 センター製作部 (10万円)

合計 2,214,645円

編集後記

福祉がまだ充実していない約40年前、でんでん虫の家を少ない人数で立ち上げ、現在も福祉の場で活躍なさっている北川さんに、一度はお目に掛かりたいと思っていました。今回、そのエネルギーなお姿に接することが出来、感無量でした。当初の原点をぶれることなく持ち続けておられる姿には、学ぶことが多かったです。今後、どんな人も地域の中で当たり前のように生活できるような社会になることを願ってやみません。(どんぐり)

コロナ禍で自殺者が増えているという。中でも女性の自殺が増えているそうです。倒産、廃業、失業等により、ローンが払えず家を手放したり、家賃が払えずホームレスになったり…いつも一番弱い者にしわ寄せが来ます。

辛い時、苦しい時、北川さんのような人が側にいてくれたら、きっと人生をもう一度やり直せるのではないかと思います。(YY)